

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスみななば波多江		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 10日		令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 15名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 3日		令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 14日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・放課後等デイサービスでは、専門職（理学療法士（PT）、作業療法士（OT））を導入することにより、児童一人ひとりの身体の動きや体幹、筋肉の状態を詳細に把握し、個別の支援に活かしています。これにより、運動や体幹トレーニングがただのリハビリではなく、児童が楽しみながら行うことができるように工夫しています。	・遊びの中にリハビリ要素を取り入れ、児童が気づかないうちに体を動かし、体幹を鍛えたり筋肉をほぐしたりできるようにしています。遊びを通じて、児童が「楽しい」と感じることで、身体の機能向上に繋がるように意識しています。 また、各児童の発達段階に合わせて、支援内容を柔軟に調整しています。例えば、体幹トレーニングにおいても、過度な負荷をかけることなく、少しずつ成長を促すようにしています。これにより、児童一人ひとりのペースに合わせた支援ができるため、無理なく継続的に身体の機能を向上させることが可能です。	・専門職の連携強化と研修の充実 専門職（PT、OT）の連携をさらに強化し、定期的なケース会議を通じて児童一人ひとりの支援計画を見直し、進捗状況を共有することで、より個別化された支援ができるようになります。また、専門職のスキル向上を目指した研修や勉強会を定期的に開催し、最新のリハビリ技術や支援方法を取り入れることで、より効果的な支援が可能になります。
2	・利用児一人ひとりのコミュニケーションを大切にしたり関わりを行っていること	・1対1の関わりを大切に個別の担当制を取り入れています。	引き続き職員間で連携をとりながら、一人ひとりとの関わりを大切にしたりした支援を行なっています。
3	・相談しやすい環境を提供していること	・保護者様からのお子様に関する相談はもちろん、職員間でも報告・連絡・相談は密に行い、話しやすい環境を意識しています。	・伝えやすい・話しやすい環境を心がけ、これまでの支援や対応をより丁寧に行っていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・特別支援学校や各小学校（通常級、支援学級）への送迎において、送迎スケジュールの重複や複数の学校への送迎が同時時間帯に集中することで、効率的な運行が難しくなっていることがあります。	・臨時の時間変更への対応等では、学校行事や急なスケジュール変更により、送迎時間が予測できず、柔軟な対応が求められる状況です。 ・車両の定員・スペース等により、送迎車両の定員やスペースの限界により、複数の児童を同時に送迎する際に不便を感じる場合があります。	・送迎スケジュールの最適化、各学校の下校時間や行事予定を事前に把握し、送迎ルートや時間を調整することで、スケジュールの重複を避ける工夫が必要です。 ・フレキシブルな対応体制の構築、臨時の時間変更や特別な要請に柔軟に対応できるよう、予備の車両や追加の職員配置を検討することが重要です。 ・ICTの活用、送迎管理ソフトウェアやアプリを導入し、リアルタイムでのスケジュール管理や情報共有を行うことで、職員間の連携を強化することが必要。
2	・各種取り組み、避難訓練等保護者様のご意見の中にわからないが多く見られた。	・ホームページ等の周知が出来ていないことが考えられる。	・保護者様に活動内容が周知できるようホームページのURLを毎月の予定表などの工夫を行い掲載された際、紹介をしていくことが必要。
3	・玄関までの階段であるため、雨の日や雪などの日には不安を感じる。	・利用児の手が届く場所に手すりがないことが考えられる。	・雨や雪の日には、裏のエレベーターを使用し対応していくことが必要。